

1 組織

- (1) 名称 東京都立第四商業高等学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局 副校長、教務部主任、生徒指導部主任、進路指導部主任
- (3) 内部委員 校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭（生活指導担当）、主幹教諭（進路指導担当）、主幹教諭（総務担当）、主幹教諭（第1学年担当）、主幹教諭（第3学年担当） 計9名
- (4) 協議委員 PTA会長、同窓会会長、地元商店街会長、中学校長、保育園長、警察関係者
商工会関係者、地元企業代表、地区区民館館長 計10名

2 学校運営連絡協議会の概要

- (1) 第1回 令和2年6月26日（金）書面による開催（協議委員10名、内部委員9名）
内容 学校長挨拶、協議委員の委嘱、学校の状況報告（学校経営計画、学校開放事業、各部活動等の取り組みについて）、協議委員からの意見および情報提供。
- 第2回 令和2年11月16日（火）書面による開催（協議委員10名、内部委員9名）
内容 学校長挨拶、学校の状況報告（学校開放事業の実施報告、学習状況、進路状況報告、部活動近況、宿泊防災訓練、募集対策委員会）、学校評価のアンケート項目の検討と実施について、協議委員からの意見および情報提供。
- 第3回 令和3年2月25日（金）書面による開催（協議委員10名、内部委員9名）
内容 学校長挨拶、学校の状況報告（各分掌、学年より今年度の総括）、学校評価（生徒、保護者、教職員、地域）アンケート結果について

(2) 評価委員会について

委員構成 副校長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭（進路指導担当）、主幹教諭（生徒指導担当）、PTA会長

【評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他】

- 第1回 令和2年6月26日（金）実施せず。内部委員3名、協議委員2名
- 第2回 令和2年11月16日（火）書面による開催（内部委員3名、協議委員2名）
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察、今年度の学校評価の実施に向けた検討、今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
- 第3回 令和3年2月25日（金）実施せず。（内部委員3名、協議委員2名）
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模（Microsoft forms と一部紙面による。）

- ・12月 全校生徒 対象：597人 回収：504人 回収率：84.4%
- ・12月 保護者全員 対象：597人 回収：247人 回収率：41.3%
- ・12月 地域住民 対象：92人 回収：92人 回収率：100%
- ・12月 教職員 対象：54人 回収：50人 回収率：92.6%

(3) 主な評価項目

- ・学校生活、教育目標、学校行事、授業進度、指導内容・方法の工夫、基礎・基本の徹底と充実、思考力・判断力・表現力、部活動、ルールマナーの順守、教育相談体制、生徒会活動、安全教育、進路情

報の提供、進路指導の相談、学校の施設・整備、パソコンの充実、図書館の利用、健康づくり、保護者・地域との連携、働き方改革

(4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容)

評価項目については、これまでの項目と変更はない。平成30年度より、国・都の施策である働き方改革の評価項目を追加した。また、今年度から教職員・生徒・保護者(地域を除く)の回収にあたり、Microsoft Forms を利用したが、各対象のアンケート回収率は低い数値にとどまっており、さらに工夫と改善を図る必要がある。評価結果について、以下のとおりである。

| | 肯定的回答 ((70%以上「1 と思う。」 2「ややと思う。」)の経年比較 | 教職員 | | 生徒 | | 保護者 | |
|---|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | R1 | R2 | R1 | R2 | R1 | R2 |
| ① | 学校の満足度 (入学してよかった) | 81.2% | 90.0% | 74.0% | 78.0% | 88.4% | 86.8% |
| ② | 学校生活の満足度 | | | 71.7% | 75.2% | 86.5% | 81.5% |
| ③ | 教育目標 | 95.9% | 88.0% | 84.1% | 97.0% | 84.0% | 79.8% |
| ④ | 学校行事の充実度 | 84.8% | 89.2% | 67.6% | 56.1% | 74.6% | 45.7% |
| ⑤ | 多展開授業への期待度 | 75.0% | 80.0% | 54.4% | 62.9% | 71.5% | 72.5% |
| ⑥ | 補習講習の充実度 | 93.8% | 91.8% | 73.9% | 85.3% | 59.2% | 55.2% |
| ⑦ | 授業進度への評価 | 89.6% | 87.7% | 75.0% | 87.9% | 58.0% | 57.2% |
| ⑧ | 基礎基本の徹底、充実度 | 62.6% | 68.0% | 68.2% | 82.1% | 65.2% | 68.7% |
| ⑨ | 思考力、判断力、表現力の育成 | 75.0% | 70.0% | 64.8% | 71.6% | 50.1% | 56.4% |
| ⑩ | 部活動の充実度 | 37.1% | 44.9% | 58.7% | 67.5% | 50.8% | 37.3% |
| ⑪ | 学校生活のルールマナーの順守 | 39.6% | 66.0% | 84.0% | 92.7% | 77.1% | 79.4% |
| ⑫ | 学校生活の教育相談体制 | 79.2% | 84.0% | 69.8% | 78.8% | 52.0% | 52.7% |
| ⑬ | 生徒会活動の充実度 | 64.6% | 46.0% | 67.1% | 65.3% | 35.7% | 39.5% |
| ⑭ | 安全教育 (交通ルール、生命尊重) | 81.3% | 90.0% | 85.2% | 96.8% | 53.0% | 55.4% |
| ⑮ | 進路情報の提供、充実度 | 97.9% | 98.0% | 80.5% | 83.5% | 69.6% | 56.4% |
| ⑯ | 進路相談の充実度 | 93.8% | 95.9% | 81.0% | 90.5% | 67.1% | 59.7% |
| ⑰ | 学校の施設・設備の充実度 | 29.1% | 22.0% | 56.3% | 44.7% | 38.5% | 42.4% |
| ⑱ | パソコン室の充実度 | 87.5% | 88.0% | 81.3% | 87.7% | | |
| ⑲ | 図書館の利用度 | 54.2% | 60.0% | 39.0% | 32.3% | | |
| ⑳ | 健康づくりの推進度 | 66.7% | 70.0% | 65.7% | 74.4% | 42.6% | 50.6% |
| ㉑ | 保護者、地域との連携度 | 85.4% | 71.4% | 64.9% | 61.9% | 58.3% | 55.3% |
| ㉒ | 学校閉庁日への理解 | 53.2% | 66.0% | 44.4% | 56.0% | 53.0% | 60.1% |

今年度の学校評価に対する全体的な集計結果では、教職員については、肯定的回答(70%以上「1 と思う。」2「ややと思う。」)は15項目(昨年度は14項目)であった。

同様に、生徒については、肯定的回答(70%以上「1 と思う。」2「ややと思う。」)は14項目(昨年度は10項目)であった。保護者については、肯定的回答(70%以上「1 と思う。」2「ややと思う。」)5項目(昨年度は6項目)であったが、昨年度に続いて(5「わからない」という回答した項目のうち30%を超えた項目(「授業の進度」、「学校の相談体制」、「生徒会活動の充実」、「進路指導における生徒の適性」)が4項目あった。

(5) 評価結果の分析・考察 (校長や学校全般への意見・提言)

学校評価の評価結果から、学校生活全般(「本校に入学させてよかった。')については、例年どおり、すべての対象(教職員、生徒、保護者)で、高い肯定的な評価を得ている。その結果、本校の教育目標「マナーの四商・資格の四商・実学の四商。全ての教育活動を通して、ビジネス社会で活躍できる社会人基礎力を育成を目指す学校」についての理解も高まっている。

今年度の生徒の学校評価では、学習指導、生活指導（学校生活、安全教育など）、進路指導、学校施設等の幅広い領域において肯定的な回答を得ている。これは、校長の学校経営計画に基づき、各分掌・学年、各教科・委員会が、それぞれが目標の設定、具体的な取組を行った結果である。「めんどみみのよい学校」を標ぼうする本校の使命とその役割を十分に果たすことができてきた結果となった。

次に、評価結果から、次年度に向けた課題を考察すると、「基礎基本の徹底、充実度」、「部活動の充実」「生徒会活動の充実度」「学校の施設・設備の充実」「図書館の利用」等は、肯定的な回答（1「そう思う」と2「ややそう思う」）が70%以下となっている。特に、学習指導の評価項目である「基礎学力が身に付いたか」「授業を通して考える力や伝える力がついたか」や教育環境の評価項目である「学校の施設・設備の充実度」は、例年課題が残る数値が続いている。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題(学校の自己評価へ反映)

今年度は、国の緊急事態宣言に基づき、東京都教育委員会から、都立学校において、5月31日まで臨時休業を実施されました。また、解除後も、分散登校が行われ、長期休業期間の変更等もありました。新型コロナウイルス感染症への対応、その影響によって、本来の教育活動が困難となった。

年間3回の学校運営協議会も紙面による開催を余儀なくされ、本校の教育活動の報告、協議委員からの意見、助言、評価も限定的な内容となった。そうした中で、「令和2年度学校評価アンケートの結果報告」から本校のさらなる発展のために、以下のご助言をいただき、令和2年度における本校の成果と課題について評価をいただいた。

【協議委員からの意見、評価】

- ・地元の小・中学校との交流や連携を図っていくことが必要である。
- ・校舎の建て替えを課題として、取り組んでいくことが必要である。
- ・少年事件や相談における苦情や取扱いはない。登下校のマナーについて、過去にも近隣の方からご意見があった。その徹底した指導をしてほしい。
- ・進路指導がしっかりなされたことで前進できたと思う。学校行事は中止となったが、来年度は、感染症対策を行い、少しでも生徒の声を拾い上げて。生徒に経験させることが必要である。
- ・学校の施設・設備は、教職員も難ありと感じている。なんとかしなければと思う。
- ・学校評価アンケートの結果をどう生かしていくかが大事である。学校の施設・設備についても、どう改善するか、生徒・教職員で話し合う機会を設けることも必要かと思う。
- ・保護者の意見から、オンライン授業とかりモートの要望もある。実験的に行っていくとよい。メール配信などはPTA（保護者）にお願いしてはどうか。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項(学校経営計画へ反映)

学校運営連絡協議会の協議委員からの意見、学校評価アンケートの結果を踏まえ、本校における教育活動の充実を図るため、以下の6項目について、その改善事項として提言をしていく。

(1) 学校運営

新たな日常を踏まえた教育活動が求められる中、引き続き、感染症対策の徹底を図りながら、新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営を図っていく。

- ① 新たな日常を踏まえた教育活動への転換を図るため、コロナ禍の持続的な学校運営を図る。
- ② オンライン学習の推進を図るため、関連する委員会等を活用し、具体的な内容を検討し、実施する。
- ③ OJTや校内研修を活用し、教員一人一人の指導力の向上を図る。
- ④ 学校広報の充実を図るため、関係の分掌を中心に、新たな募集対策活動を行い、入学生を確保する。

(2) 学習指導

令和4年度より学年進行で移行する新学習指導要領や、高大接続改革の対応した教育課程の改編を踏まえて、自校における学習指導上の課題解決を図っていく。

- ① 校内寺子屋事業の継続など、生徒の基礎学力の定着を図るため、組織的計画的な指導の工夫を行う。
- ② 段階的・系統的な指導により、基礎的資格取得の向上につなげる。
- ③ 外部機関との連携、調査・研究・発表活動の充実を図り、新しいビジネス教育を推進する。
- ④ わかりやすい授業の更なる推進のための ICT 機器を活用した授業の充実を図る。
- ⑤ オンライン学習による反復学習ができる体制を構築する。

(3) 特別活動

新たな日常に対応した学校行事や部活動等の在り方を検討しつつ、集団活動に自主的・主体的に取り組むことで、生徒ひとり一人、互いのよさや可能性を発揮できる機会としていく。

- ① 新たな日常に対応した学校行事の見直しや生徒会活動等の検討を行う。
- ② 部活動加入率や活動実績を向上させるための具体的な検討を行う。
- ③ ホームルーム等を通して、望ましい人間関係、集団活動の育成を行う。
- ④ 生徒会活動等の充実によるリーダー性の育成を図る。

(4) 生活指導

新たな日常に対応した生活指導の在り方を検討し、生徒の学校生活の充実を図っていく。

- ① 新たな日常に対応した「新たな生徒心得・基準」を検討する。
- ② 学校生活における6つのS（整理・整頓・清潔・清掃・作法・躰）を徹底する。
- ③ 自転車安全走行指導等、安全教育の充実を図る。
- ④ 新制服の導入に向けた「制服検討委員会」の立ち上げ、学校生活の充実や学校広報の推進につなげる。

(5) 進路指導

新たな日常を踏まえ、変化する実社会に対応した進路指導の在り方を検討し、生徒の進路指導の充実を図っていく。

- ① 新たな日常に対応した「高校3年間の進路指導計画」の見直しを行う。
- ② オンラインを活用した進路情報を提供できる体制を構築する。
- ③ オンライン学習と取り入れた進路指導の充実を図る。
- ④ 「人間と社会」を関連付けたキャリア教育を推進するため、インターンシップの充実を図る。

(6) 健康・安全

学校生活の基盤となる生徒の健康と安全について、検討し、具体的な取組を行っていく。

- ① コロナ禍における検温チェック体制の継続を図っていく。
- ② 様々な課題を抱える生徒への対応を図るために、SCや専門医を活用する。
- ③ いじめ、暴力行為、自殺等の防止と学習障害の生徒への支援を行う。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

| そう思う | 多少そう思う | どちらとも言えない | あまりそう思わない | そう思わない | 分からない | 無回答 |
|------|--------|-----------|-----------|--------|-------|-----|
| 2 | 5 | 1 | | | 2 | |